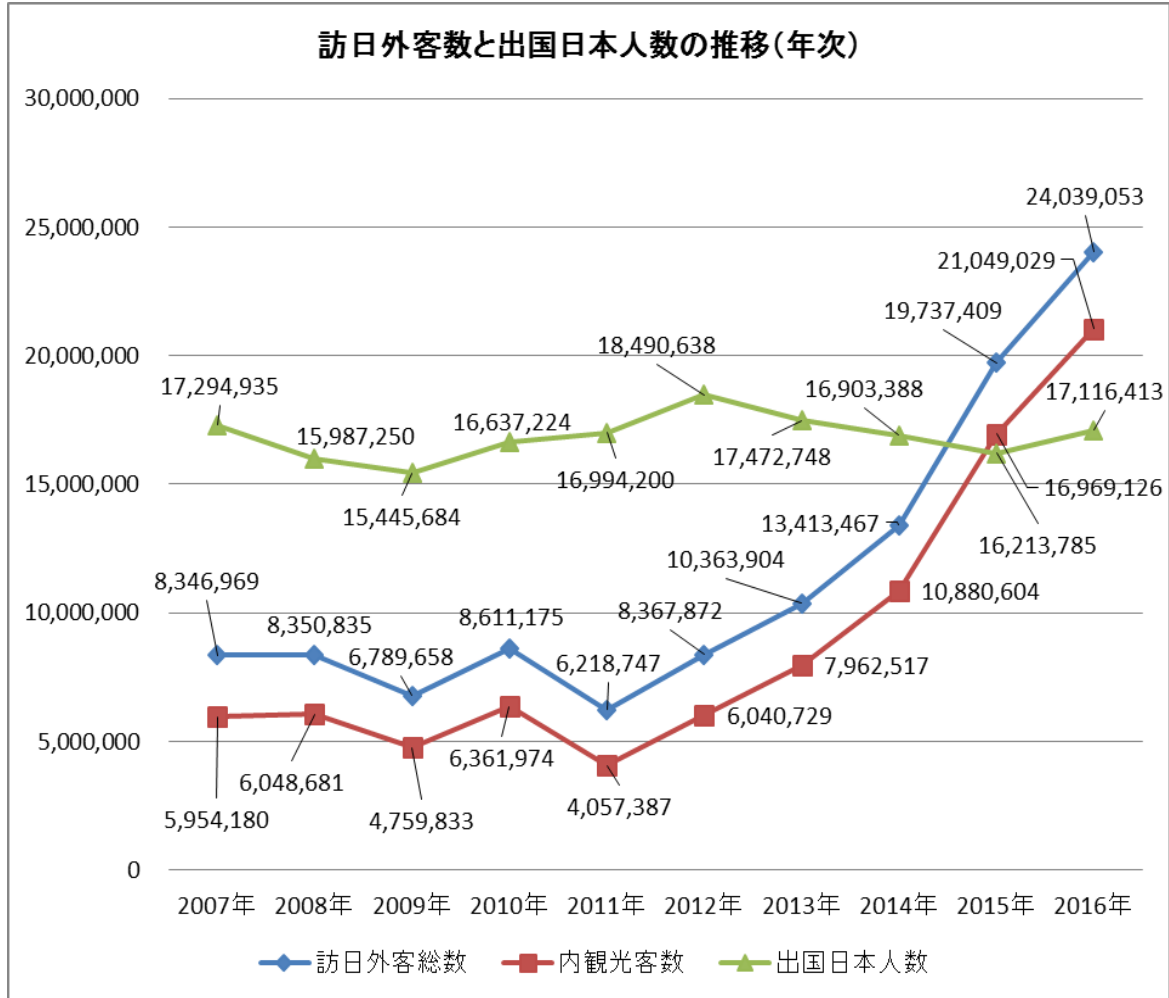


## 訪日外客数等に関するデータ（2017年2月速報値まで）

## 1. 訪日外客数と出国日本人数の推移（年次）



訪日外客数は2011年を底に、大幅に増加しています。特にビザの発給要件の緩和や円安効果によりロシアを除く多くの国の訪日外客数が過去最高を更新しています。2015年は2,000万人に迫る増加となり、2020年開催のオリンピックまでの目標数値2,000万人が3,000万人へと変更になっています。訪日外客数トップ3の中国、韓国、台湾だけで2016年1月～6月の上半期だけで760万人を超えています。

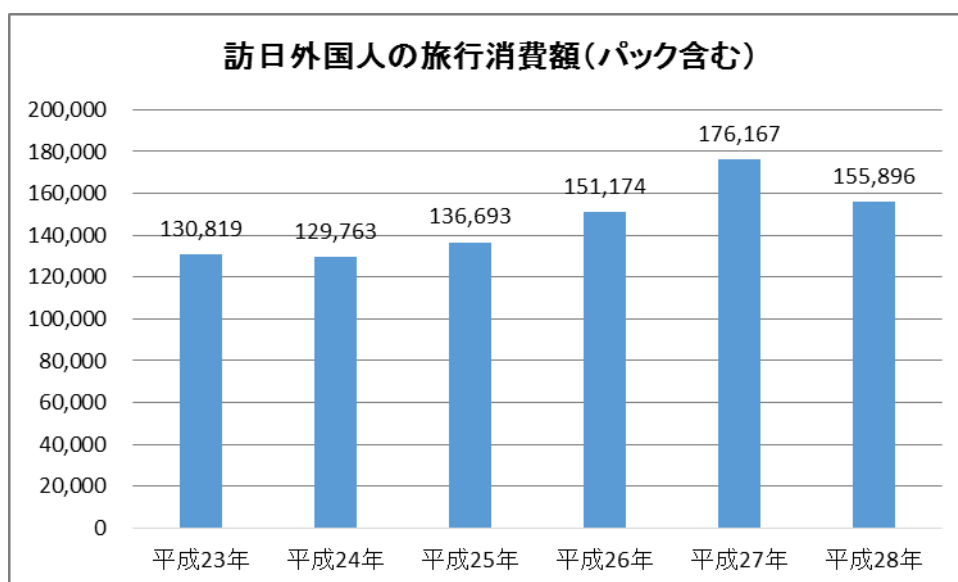
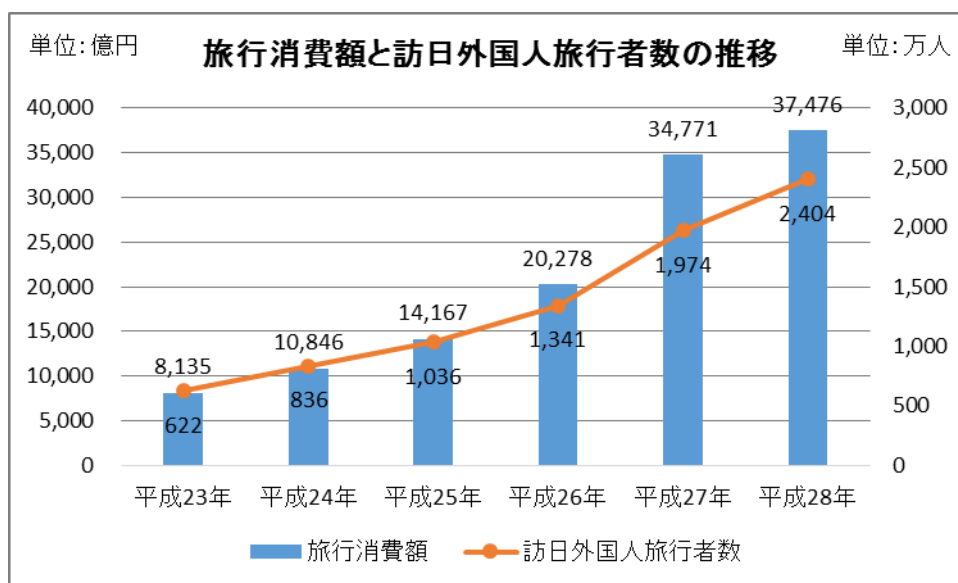
東京都心、大阪、京都ではホテル不足が深刻化していますが、ここに来てホテルの新設ラッシュや民泊施設の大幅増加と認知度の高まりに伴い、過去最高の訪日外国人数になりましたが、ホテルの客室稼働率は2015年を下回る結果となっています。日本でも宿泊施設の多様化が法整備を待たずに確実に進んでいると言えます。

日本経済新聞によると2014年東京都内主要18ホテルの平均稼働率83.9%、2015年は84.5%、

2016年は83.0%となっています。大阪の主要12ホテルの平均稼働率は2015年90.4%、2016年は89.0%となっています。

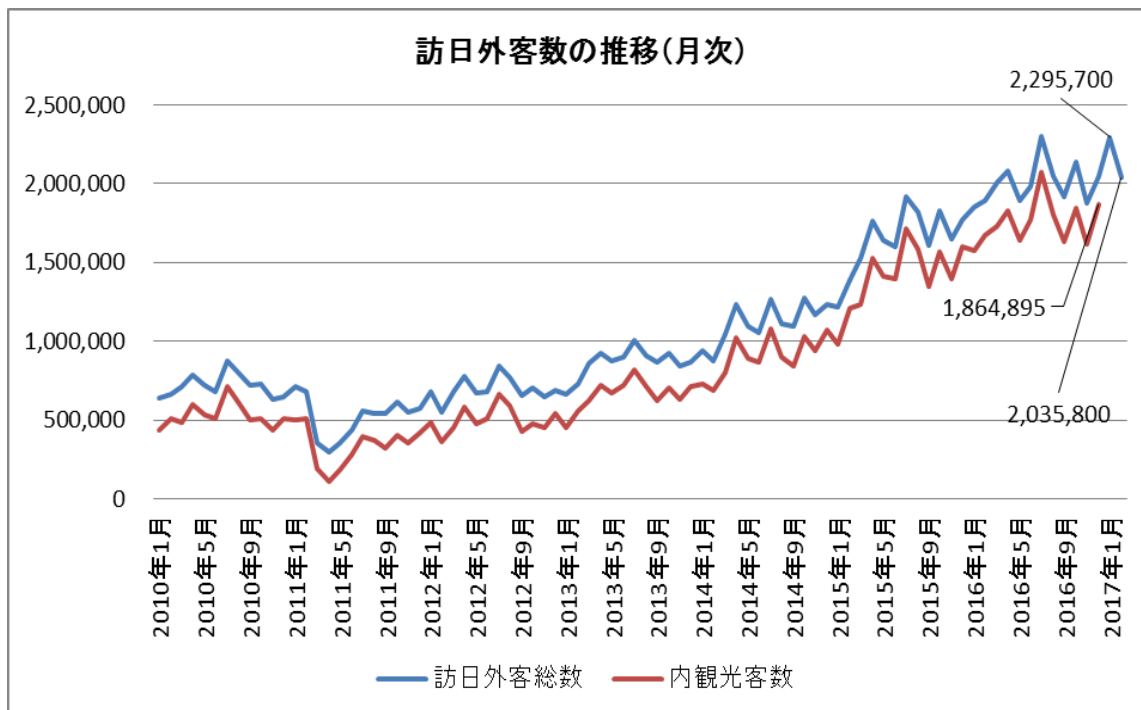
また、旅行者数は増加していますが、一人当たりの旅行消費額は減少しています。日本製産品をネットで購入する環境整備が進み、また、何度も訪日している観光客が物ではなく、文化の体験等に消費を変えていることが大きな要因と言われています。

2014年の訪日外国人の旅行消費額は2兆278億円、2015年は3兆4,771億円、2016年は3兆7,476億円となっています。一人当たりの旅行支出は2014年151,174円、2015年176,167円、2016年が155,896円となっています。

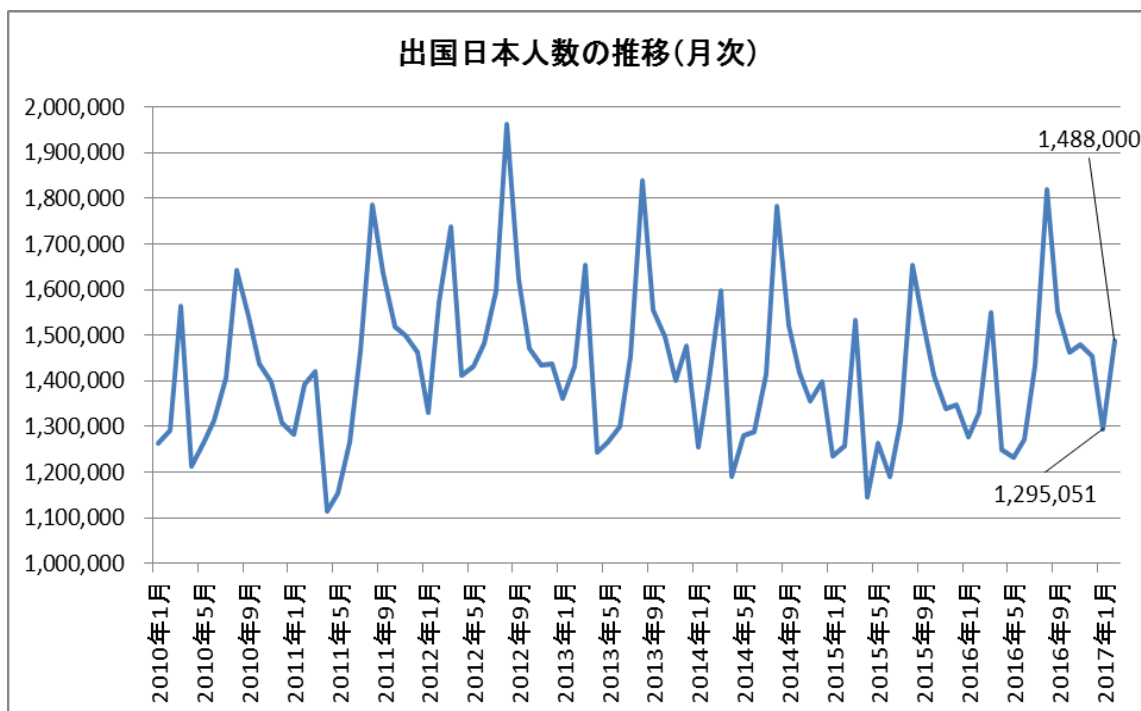


※ 上記費用には訪日外国人が日本の航空会社及び船舶会社に支払う国際旅費運賃（往復）は含まれていません。

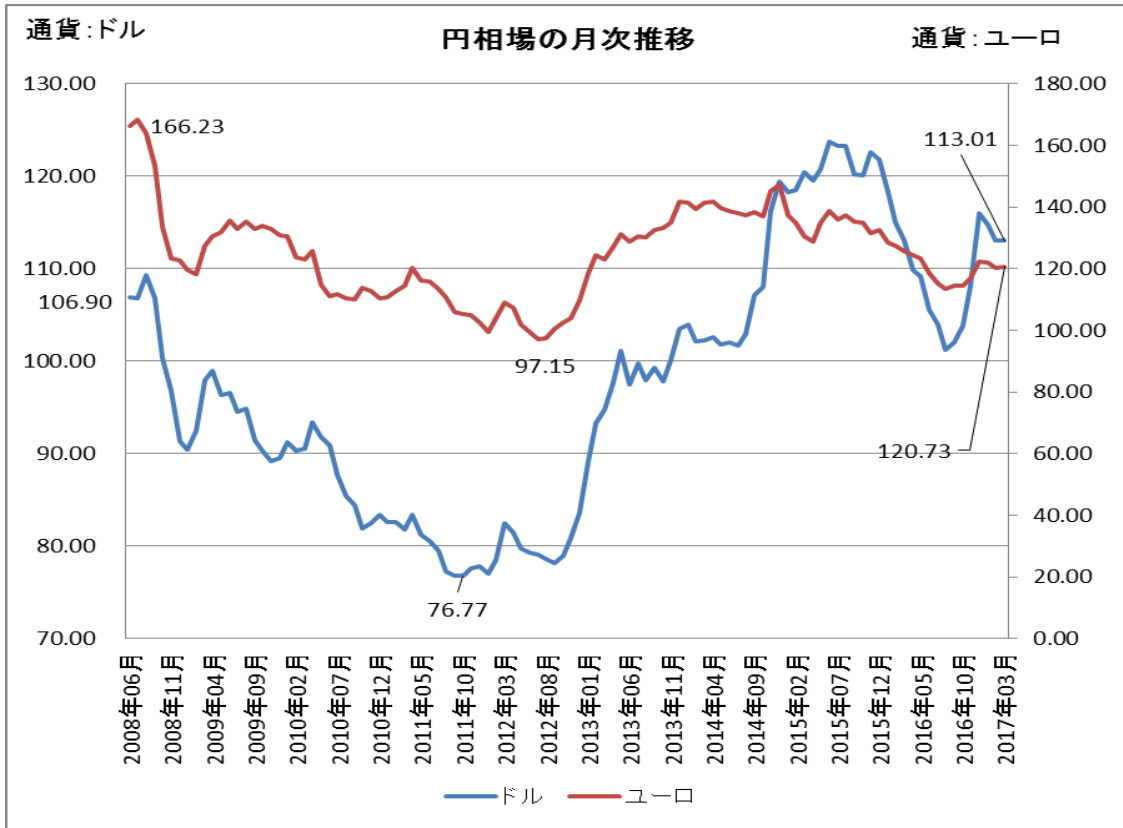
## 2. 訪日外客数の月別推移



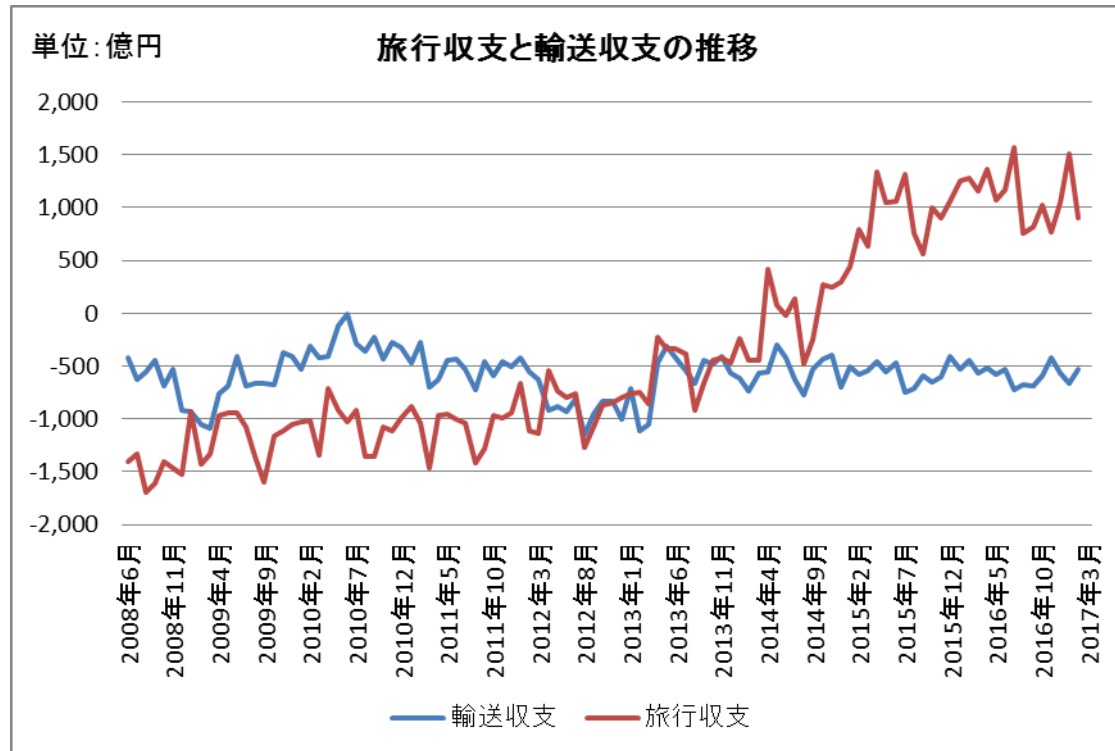
## 3. 出国日本人数の月別推移



#### 4. 為替水準



#### 5. 旅行収支と輸送収支



**【出典】**

日本政府観光局（JNTO）を基に株式会社リアルプロ・ホールディングスが作成

財務省国際政策のデータを基に株式会社リアルプロ・ホールディングスが作成

為替水準は日経新聞景気指標のデータを基に株式会社リアルプロ・ホールディングスが作成

**【用語解説】**

輸送収支：旅客運賃や財貨の移動、乗員を含む全ての輸送サービスに関する取引。

旅行収支：旅行者（ビジネス含む）が外国で使ったお金と外国人旅行者（ビジネス含む）が日本で使ったお金の収支。